

千秀だより

横浜市立千秀小学校 令和5年(2023)4月7日

4月号



URL : www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/senshu/

笑顔と優しい言葉

校長 平島幸江

春の暖かな風が校庭で遊んでいる児童の声を校長室に運んできます。時折、かわいらしい鳥の鳴き声も聞こえてきて、4月の新生活の緊張を解きほぐしてくれます。

この度、千秀小学校の校長として着任いたしました、平島幸江(ひらしまゆきえ)です。富田前校長先生から歴史と伝統のある千秀小学校を引き継ぎ、たいへん緊張して日々を過ごしておりますが、地域の皆様や学校関係機関の皆様から温かい励ましの言葉をいただいたり、また、何より学校周辺の自然豊かな美しい風景にも感動しパワーをいただいたりしながら毎日楽しく勤務しております。どうぞよろしく願いいたします。

さて、本日、新年度を迎え、本校は全校児童206人でスタートいたしました。この4月より学校でもマスク着用を「求めない」対応が始まり、本で行われた始業式や入学式もこの対応で実施いたしました。私自身もできるだけマスクをはずし「顔の見える」形になるよう努めました。それは、話す言葉は、口形や表情を見せることでさらに内容が伝わりやすくなると考えるからです。目だけ見える状態で話すときと、笑顔で「あ、い、う、え、お」と口を広げて話すときでは、内容の聞き取りやすさは大きく違ってきます。人は、話を聞きとるときに、話す人の表情を視覚的に読み取りながら聞いているのだそうです。顔の見える、わかりやすい状態で会話できるようになってきたことは本当に喜ばしいです。

とはいえ、マスクをとって人前にでるのは、それなりに勇気がいるものでもあります。人前にでて「話すことが仕事」の教員さえも同様です。少しずつ、コロナ禍以前の状態に社会情勢が戻りつつありますが、無理なく安心して日々を過ごすことができるよう、緩やかにもとの生活に戻ることができるよう、配慮しながら今年度の教育活動をスタートさせたいと思います。

さて、今年度は、学校教育目標「自分で考え 表現し 挑戦し続ける子」の実現に向けて、特に「表現」に視点をもって取り組むよう教職員に話しました。これは、イベント的に何か発表をするということではなく、もっと日常的な交流や会話、話し合いなどに着目し、児童が自分の言葉で話す、自分の思いを表現することに取り組むたいのです。身近な人や思いを伝えたい相手に、表情豊かにそのよさを話すことができる、そんな力を児童が身につけたらどんなに素晴らしいことでしょうか。そして、伝えた相手から、笑顔で優しい言葉を返していただけたら、児童はさらに自信がつき成長していくことでしょう。この学校だよりなどを利用して、児童の成長や交流の様子をお伝えしていきたいです。令和5年度の千秀小学校がスタートします。改めまして、今年度も千秀小学校の学校教育活動への変わらぬご支援ご協力をどうぞよろしく願いいたします。